

軍艦
赤城

1701

海軍省		軍務局長		局長		軍務局長		儀制	
大正十四年二月		二月十七日		二月十七日		二月十七日		二月十七日	
東四月下旬進水予定、市城余名式ニ		行啓仰中度中内議有之候處		決定セリ候條御了知相成度爲石		右内報ス		相成御内書ニ候	
皇族御差遣ヲ奏請可									

14.2.21

海軍

14.2.1

模造半葉十三行野紙

特

1702

書類

大正十四年四月十四日起案

起案者
捺印

大正十四年四月十四日

主務局、部
取扱者捺印
起案罪証(甲)

(主務)軍務局長
第二課長

副官

大臣

次官

参事官

局員

人事局長
第一課長
局員

艦政本部長

第四部長

總務部長

第二課長
第三課長
第四課長

大正十四年四月十六日 大臣

吳鎮長官宛

博恭王殿下ヲ航空母艦赤城進水命名式ニ被差遣件

號番

官定一八九の七

局、部	受月日	發月日	官房	軍務	人事	教育	機關	醫務	經理	建築	法務	艦政	軍令
					四月十六								

1703

制

来二十日其府工廠ニ於テ建造ノ航空母艦未城進水ニ
付當日博恭王殿下ヲ被差遣候旨御沙汰相成候
趣宮内大臣ヨリ通牒有之候條此旨心得

右訓令ス

追テ殿下御發着御豫定等ハ御治定相成次第別ニ

通牒セシム

(終)

一八九八

大正十四年四月十六日 次 官

侍従武官長

東宮武官長

施 考 選

大正十四年四月拾六日發布

航空母艦未城進水ニ付博恭王殿下ヲ被差遣件

来二十日海軍工廠に於て航空母艦赤城進水ニ付博
王殿下ヲ被差遣候旨 御沙汰相成候趣宮内大臣ヨ
リ海軍大臣へ通牒有之候
右通牒ニ

出案部紙乙

二九八

大正十四年四月十一日

次官

皇族附武官宛

大正十四年四月拾六日發布

博王殿下ヲ航空母艦赤城進水命名式舉行ニ付

被差遣件

本件ニ關シ別紙ノ通吳鎮守府司令長官へ訓令
レ候條御了知ノ上殿下御臨場ノ御都合等ハ貴官ニ

於御伺之上御治定次第御通報相成度
右申進ス

(別紙一葉添)

(終)

永局

文書第二二一號

大正十四年四月十三日

海軍大臣 財部 彪殿

宮内大臣 一木喜徳郎

問 答

本月六日付官房第一一九八號ヲ以テ航空母艦赤城進水ニ付皇族御着遣ヲ仰モ度件照會ノ趣了承右ハ來二十二日博恭王殿下ヲ被差遣候旨

御沙汰相成候

追テ殿下御臨場ノ御都合ハ貴大臣ヨリ申上相成度

官房第二一九八號ノ乙

宮内省



1707

綴書類

大正十四年三月十七日起案

起案者捺印

14.3.3
第三課
武納
14.3.2

大正十四年四月六日
付掛
印

主務局、部
取扱者捺印
發付後起
案者捺印

起案部(甲)

(主務)

軍務局長

第一課長

局員

大臣

次官

參事官

副官

人事局長
第一課長松下局員

總務本部長

第四部長

總務部長

第二課長
第三課長
第四課長

次長

第一班

大正十四年四月六日

宮内大臣宛

航空母艦赤城進水ニツキ

皇族、御差遣

號番

官房第九八號

局、部	受月日	發月日
官房	四月二日	
軍務		三月八日
人事		
教育		
軍需		
機關		三月二十八日
醫務		
經理		
建築		
法務		三月三十一日
艦政		
軍令部	四月一日	四月八日

1708

傳制

ヲ仰キ度件

来四月二十二日吳海軍工廠ニ於テ建造中ノ航空
母艦赤城進取ニツキ命名式ヲ行ハセラル候ニ就テハ
皇族ノ御差遣ヲ仰キ度候條右奏請方可然
御取計相成度
右照會ス

(統)

海軍

模造半葉十三行野紙

海軍省

車務局長

第二課

局

大正十四年四月十五日

省副官

呉鎮副官宛

電報

四月十五日
午後四時
分發
電報

序定通り

赤城命名式ハ二十二日ナリ

1710

軍務局

大正十四年四月十一日

日 午前八時十分 海軍省 發

受信者 省副官 發信者 吳鎮守府副官

電報譯 (暗平)

赤城命名式ハ二十三日ニ決定セラレシヤ

何カ途中電報ノ誤リナシニテ決定アリ
ニ十二日ナリ

海軍

模造半葉十三行野紙

1711

乙己

軍務局長

第二課長



局長

海軍

模造半葉十三行野紙

大正十四年四月二十日

省副官

儀制

呉鎮参謀長宛

電報

四月二十日
午後九時十八分
電報

赤城進水式ニ御臨場、博恭王殿下貴地御登岸、

二十日午後二時十八分宮島御發、高津艇三隻、島ラ左

ヲ吳御着、澤野邸御宿泊、二十二日進式御臨場（如殿下

女玉殿下御同列）午後江田島・成ララル、二十三日午前廣

工廠御覽、午後飛逐艇三隻、御登岸、高津へ向ハセラル、

右關係ノ向ハ御通知アリタル

軍務局

大正十四年四月十四日

皇角皇族附武官

海軍省別官殿

第二課 下大

海軍省別官殿 殿下及教子女殿下御旅行

御日程別紙一通申付奉る

送付

302

海軍

受接 14.4.18

1713

三殿下御旅行御日程

四日 午後二時五十五分佐世保駅御發(隨行武官、宮内屬一

侍女三)山陽ホテル御一泊

五日 午前九時四十五分下関駅御發

午後二時十八分宮嶋駅御着吳鎮ヨリ差廻シ、高速車
ヲ嚴嶋ヲ經テ吳ニ向ハセラル澤原邸御宿泊

六日 午前九時赤城進水式御臨場(公武(第一陸上陸軍)等
ヲ會合所御着也)

妃殿下敦子女王殿下ニ御臨場ノ御豫定

午後三殿下高速車ヲ江田嶋ニ成ラセラル(音ノ如クハ
御着發共ニ小用、全所兵學校間妃殿下ニ人々
他ノ殿下御徒步 澤原邸御宿泊

七日 博恭王殿下ノ午前廣工廠御視察

午後吳鎮守并ノ驅逐艦ニテ高濱ニ渡ラセラル(午後)

三十分全港發紅丸ニ御乗船大改ニ向ハセラル
港ニ作入港
決算御乗船

二十四日 午前九時大改御着

午前十時四十五分湊町駅御發

午後零時三十分奈良御着奈良ホテル御宿泊

午前八時十五分奈良御發九時三十分京都御着

午前九時五十分京都發特急ニ御發午後八時三十分

東京御着

軍務局長

第二課長

局員

海軍

大正四年四月十四日

午後四時

分

局發

發信者 海軍

皇族附武官

受信者 軍務局長

電報譯

遅

四月二十日佐世保御發、山陽土予ル御泊、二十一日午後
二時十八分宮島御着汽艇三ヶ、吳御着
委細海軍有副官宛文

号市着外百書文不明、予書款着次系予記ス

(明正印刷納)

1716



五五

海軍

模造半葉十三行野紙

軍務局長 第二課長

大正十四年四月十四日

軍務局長

佐鎮氣付

皇族附武官宛

四月十四日
午後一時分發電

来二十日赤城進水ニ付 博恭王殿下ヲ差遣ハサル
ル旨御沙汰アリタリ就テハ 殿下御臨場ノ御都合
等御伺ヒノ上御決定ハ茅電報アリタリ 尚進水
ハ茅書ハ 吳鎮參謀長ヲ直接貴官宛送付ノ
ストニ取計置ケリ

大正十四年四月十四日

軍務局長

吳鎮參謀長宛

四月十四日
午後四時分發電

赤城進水ニ付 博恭王殿下ヲ被差遣 旨御沙汰

1717

海 軍

模造半葉十三行野紙

アリタルニ付 次第書直接 御附武官宛 至急送
付アリタル尚 御次第著 御予定等 当方ヨリ通牒
ス 書類後送

1718

取 指
极 定

起衆紙也

本館
14.4.21
安插

Figure 1



參事官

副官

人事部長 第一課長 局員 三好

監政本部
總務部長

第二課長

第一課



四月二十日
午前九時三十分
發電濟

大正十四年四月廿七日

次官

吳鎮長官宛

赤城命名式ニ大臣参列セラルサルニ付大臣代理

號番

官房第三九條電報

毒

[illegible]

儀制

トシテ貴
官ヲ参列セシメラル
右依命

サ

三

人事局

軍務局

来ニ十二日
致サレズ候

赤城進水式ハ大臣参列



海軍大臣秘書官

模造半葉十一行野紙



海軍

1721

吳鎮守府日令第八二號

大正十四年四月十八日

吳鎮守府司令長官職務執行者

海軍大將 竹 下 勇

海軍省

一、來二十二日午前九時軍艦赤城命名式舉行セラレ 伏見宮博恭王殿下ヲ被差遣

二、御發著豫定

(イ) 二十一日午後二時十八分 博恭王殿下同妃殿下竝敦子女王殿下宮島驛 御著嚴島ヲ經テ(場

合ニ依リ海上ヨリ 台覽)午後四時三十分頃第一上陸場 御著直ニ澤原別邸ニ被爲成

(ロ) 二十二日午前 博恭王殿下同妃殿下竝敦子女王殿下第一上陸場ヨリ 御乘艇吳海軍工廠ニ

被爲成命名式終了後第一上陸場ヨリ 御上陸御旅館ニ 御歸還

(ハ) 二十二日午後 博恭王殿下同妃殿下竝敦子女王殿下第一上陸場ヨリ 御乘艇江田島ニ被爲

成同日御旅館澤原別邸ニ 御歸還

江田島ニ被爲成途次隱戸瀬戸 台覽

(ニ) 二十三日午前 博恭王殿下廣海軍工廠ニ被爲成 博恭王殿下同妃殿下竝敦子女王殿下午後

四時頃御旅館 御發第一上陸場ヨリ 御乘艦高濱ニ被爲向

(ホ) 命名式 御臨場ノ爲第一上陸場 御發ヨリ同上陸場 御着迄ノ外總テ御微行

三、命名式當日ノ諸次第

(イ) 午前八時二十分 殿下御旅館 御發第一上陸場ヨリ 御乘艇同八時四十分工廠御召棧橋ヨ

リ 御上陸御徒歩ニテ御便殿ニ被爲成命名式終了後(九時三十分ノ豫定) 御發御召棧橋ヨ



第二



四月廿二日
官房長

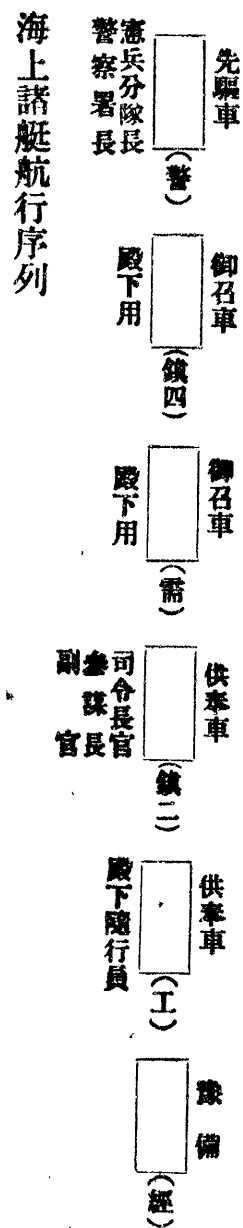


1722

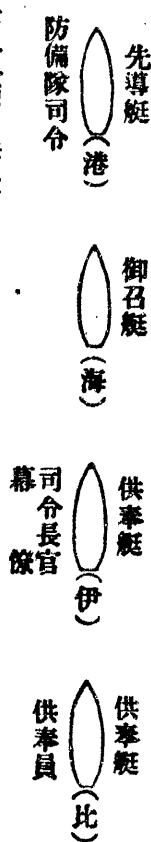
(ロ)

リ 御乗艇第一上陸場ヨリ 御上陸御旅館ニ 御歸還
供奉序列左ノ如シ

陸上自働車序列



海上諸艇航行序列



(ハ)

滿艦飾及艦飾

二十二日午前八時軍艦、驅逐艦、特務艦、掃海艇ハ滿艦飾、潜水艦ハ艦飾ヲ行ヒ午前十一時四十分所在海上首席指揮官ノ乗艦ニ倣ヒ之ヲ撤スヘシ

(ニ)

禮砲及敬禮

所在軍艦ハ左ノ時機ニ於テ軍艦伊勢ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フヘシ但シ軍港第一區内ニ在ルモノヲ除ク

御召艇第一上陸場ヲ離レタル時

御召艇工廠棧橋ヲ離レタル時

(ホ)

前項皇禮砲施行ノ際在港艦船ハ禮式令第六十五條及第九十三條ノ敬禮ヲ行フヘシ
儀仗兵

當日別表(第一)ノ儀仗隊及儀仗衛兵ヲ派遣ス

儀仗兵指揮官ヲ海軍大佐今川眞金ニ指定ス

儀仗隊ハ奉迎ノ時午前八時二十分奉送ノ時午前九時二十分迄ニ別圖(イ)(ロ)ノ位置ニ就クヘシ

關係所轄長ハ該編制表ニ據ル准士官以上ノ官氏名ヲ二十日迄ニ儀仗兵指揮官ニ通知スヘシ
儀仗兵指揮官ハ當日迎送式ニ差支ナキ限軍樂隊ヲ吳海軍工廠長ノ定ムル所ニ依リ服務セシムヘシ

(ヘ)

迎送式

命名式當日所在海軍高等官及勤務ニ差支ナキ准士官及判任文官(一等ノミ)並約半数ノ下士官兵ハ午前八時迄(准士官以上午前八時二十分迄)ニ別圖(ハ)(ニ)及同九時二十分迄(准士官以上ハ式後直ニ)ニ別圖(ニ)(ホ)ノ位置ニ堵列奉迎奉送スヘシ但シ下士官兵ニハ各部ニ於テ夫々指揮者ヲ附スヘシ

前項堵列兵ノ總指揮官ヲ海軍中佐黒羽根秀雄ニ指定ス

關係所轄長ハ其ノ下士官兵ノ員數ヲ指揮者ノ官氏名ト共ニ來二十日迄ニ總指揮官ニ通知スヘシ

(ト)

伺候式

殿下御便殿 御着ノ後左記諸官ハ拜謁スルモノトス

現役海軍將官、同相當官、廣島縣知事

(チ)

前項以外ノ海軍高等官ハ同所ニ奉伺(官爵氏名ヲ書シタル名刺奉呈)スヘシ
服 裝

禮裝滿艦飾撤去後ハ軍裝ニ復ス

四、命名式場

(イ) 工廠長ハ進水準備整頓セハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告ス

(ロ) 海軍大臣進水命令書朗讀終テ之ヲ鎮守府司令長官ニ授ク

鎮守府司令長官ハ工廠長ニ進水ヲ命ス

(ハ) 船体進行ヲ始ムルト同時ニ軍樂隊ハ奏樂ヲナシ船体ノ全ク船渠外ニ出テタル時ヲ以テ進水ヲ終了スルモノトス

(ニ) 工廠長ハ進水ノ終了ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ式ノ終了ヲ海軍大臣ニ報告ス

(ホ) 港務部長ハ豫メ繫留場ヲ定メ置キ進水後艦ノ繫留保護ヲ擔任スヘシ

五、關係所轄長ハ別表(第二)ニ依リ當日自働車並短艇ヲ準備供用スヘシ

六、殿下二十一日第一上陸場 御着ノ時並二十三日吳 御發ノ時司令長官幕僚ハ第一上陸場ニ奉迎奉送シ御旅館 御着ノ後直ニ奉伺スヘシ

七、吳高濱間ノ 御召艦ヲ驅逐艦菊ニ指定ス

八、關係諸員ノ服裝ヲ通常禮裝(命名式ノ場合ヲ除ク)帶勳一個トス

(終)

別表第一

儀仗兵編制表

儀仗兵指揮官 海軍大佐 今川 眞金(球磨)

儀仗兵指揮官附 海軍大尉 (球磨)

儀仗隊

職名	官	階級	員數	所轄		別勢	記事
				海兵團	伊		
大隊長	少佐		一			一	
大隊副官	中少尉		一			一	
大隊下副官	兵曹長		一			一	
同附	水兵曹(掌號兵)		一一			一一	
中隊長	大尉		二	一		一	
中隊附	兵曹長		二	一		一	
	掌信號兵(水兵曹)		六	三		三	

別表第二

自働車供用表 (命名式御成ノ時)

自働車所屬		用途	派出先	記	事
鎮守府(四)	御召車	御旅館	二十二日午前八時迄ニ御旅館着 同九時二十分迄ニ第一上陸場着用奉仕		
軍需部	同	同	同		
鎮守府(二)	司令長官用	同	特令ス		
吳工廠	供奉用	同	御召車ニ同シ		
經理部	豫備	同	右同		
吳工廠	同	同	右同		
備考	二十一日、二十三日 殿下御著發ノ際及二十二日午後江田島ニ被爲成際御旅館第一上陸場間御用奉仕ニ使用ス時刻ハ其ノ都度令ス				

機 動 艇 供 用 表							(命名式ノ時)
考 備	派 出 部	艇 種	隻 數	用 途	記 事		
午前八時迄ニ第一上陸場東棧橋ニ準備スヘシ	海 兵 團 長 官 艇	一	御 召 艇	皇族旗 特別敷物準備 指揮中少佐 官氏名ヲ報告スヘシ			
	伊 勢 艦 載 水 雷 艇	一	司 令 長 官 用	將官用敷物 大將旗準備			
	港 務 部 同	一	御 先 導 艇	將官用敷物 少將旗準備			
	比 叡 同	一	宮 内 官 用 警 衛 官 用				

別圖
奉迎奉送位置圖

